

JAERA

NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- ☐ 巻頭言 … P1 ☐ 総力特集「2020 年度 定時社員総会」… P1・P2
☐ 2020 年度自動車リサイクル士制度「更新講習会サテライト化による実施」… P3
☐ 新型コロナウイルスの影響を受け、事業継続のための働き方の変化を紹介 … P3
☐ 5 月新車販売・使用済自動車発生台数 … P4 ☐ 2020 年度 貴金属類の共同出荷事業のご案内… P4
☐ 鉄スクラップ最新情報 … P5 ☐ 行事予定・お知らせ / 編集後記 … P6

vol.136

総力特集「2020 年度 定時社員総会」

01

会員の皆さまへ

一コロナ緊急支援策：会費 3 か月分無料を決定一

会費の原資は、2020 年度事業計画予算の予備費や常任役員会、各部会等のテレワーク・リモートワークによる経費削減費用を引き当てることを臨時理事会で協議され、承認されました。

■第 16 期 定時社員総会

日本自動車リサイクル機構 第 16 期(2020 年度)定時社員総会は、既にお知らせのとおり、新型コロナウイルスの感染拡大防止と会員の皆さまの健康と安全を守るため、支部総会による書面議決にて執り行うことに致しました。

よって今期の総会・懇親会は中止し、6 月 18 日(木) 13 時から機構本部会議室にて、理事 2 名(酒井代表理事、木内副代表理事)と事務局の必要最小限の人数で「第 16 期定時社員総会の議案」の議決書面の確認会を実施いたしました。

結果、会員の皆さまの承認が得られましたことを報告いたします。

【当日の確認会】



巻頭言

「ジメジメ」「憂鬱」と嫌いな梅雨がやってきました。

でも梅雨がなければ、夏水不足になって農作物は枯れ、食だけでなく私達の生活は大変困窮するでしょう。

そして秋、冬になってもその悪影響が続くかもしれない。今の時期に多くの雨が降る理由と役割があることを考えると、梅雨を嫌うのを躊躇います。

「降ってありがたい」と感謝の念が沸いてきますが、何事もほどほどが良いですね。

自分でも不思議ですが、この歳になると常に何事にも意味があって自己中心的思考の枠を広げれば、何に対しても感謝・感謝の心が生まれてくることを感じます。

〈広報部会 田村 幸男〉

《編集・発行責任者》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
広報部会長 永田 則男

《お問い合わせ先》

一般社団法人日本自動車リサイクル機構
〒105-0004
東京都港区新橋3丁目2番2号
TEL: 03-3519-5181
FAX: 03-3597-5171
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp
H P: <http://www.elv.or.jp/>

第 16 期（2020 年度） 理事・監事体制

【理 事】

	氏 名	役 職
1	酒 井 康 雄	代表理事
2	永 田 則 男	副代表理事
3	石 井 浩 道	副代表理事
4	木 内 雅 之	副代表理事
5	埜 村 岳 史	副代表理事
6	平 地 健	理事・地域ブロック長会長・兼務（東北）
7	山 口 一 幸	理事・ブロック長（北海道）
8	小 林 信 夫	理事・ブロック長（関東）
9	光 山 広 志	理事・ブロック長（中部・北陸）
10	赤 松 健 一	理事・ブロック長（近畿）
11	中 村 昌 徳	理事・ブロック長（中国・四国）
12	森 田 光 弘	理事・ブロック長（九州）
13	松 田 和 生	理事・ブロック長（沖縄）

【監 事】

	氏 名	旧役職
1	大 橋 岳 彦	監 事
2	石 上 剛	副代表理事

【備 考】

※第 15 期 19 名体制から第 16 期は 13 名体制まで理事を削減。

※常任役員会メンバーは、1 ～ 6 までの理事。（常任役員会：6 名体制）

※監事、相談役、名誉顧問は、既にお知らせのとおり今期から変更。

※全ての名簿は、下記ホームページで参照ください。

<https://www.elv.or.jp/>



2020 年度自動車リサイクル士制度 「更新講習会サテライト化による実施」

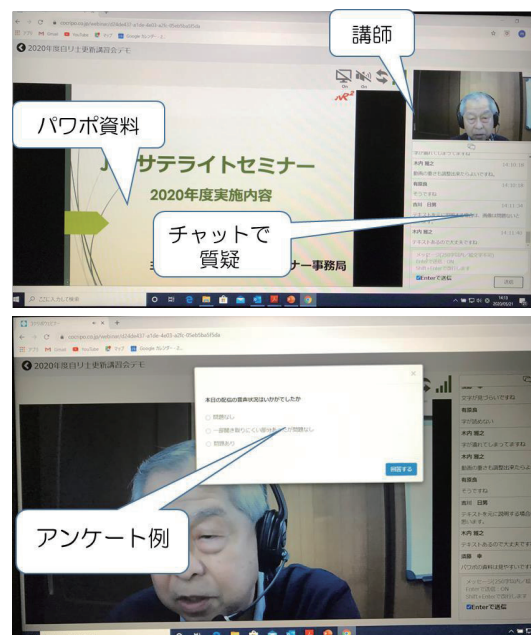
03

■2020 年度 自動車リサイクル士制度の認定講習会について

昨今の新型コロナウイルスの影響が完全に終息するまでには、長期化することが考えられリサイクル技術部会では、講習会開催にあたり受講者の皆さまの健康と安全並びに感染拡大予防対策（3 密を避ける、他都府県をまたがる移動、不要不急の外出自粛など）が必須であり、感染予防措置を講じた上での開催ができないか論議いたしました結果、更新者向けの認定講習会は、会社や自宅のパソコン等で受講するサテライト方式の認定講習会として開催することを、常任役員会に提案し、承認を受けましたので報告します。

今後、受講方法、講習内容、講習スケジュールなど、認定講習会の具体的な準備を行い、改めてご案内いたします。なお、新規講習会については、別途ご案内申し上げます。

【更新認定講習会のパソコン受講イメージ写真（JVR 資料提供）】▶



新型コロナウイルスの影響を受け、 事業継続のための働き方の変化を紹介

04

名古屋南部エリアでは、2 月上旬～中旬にかけてスポーツジム・スーパーなどからコロナウイルス感染者のクラスターが発生し、いつ自社で感染者が出ても不思議ではない状況下にありました。その様な中、近隣でもドラッグストアからマスクや消毒、トイレトペーパーが無くなり、早い時期からコロナ感染が大変身近な状況でした。

早速社内に向け「新型コロナウイルスについての対応（ガイドライン）」と「社内で感染者が出た場合の各部署の対応について」を策定し発表。3 月上旬には、感染予防対策の一環としてコロナの影響を受け仕事が減少されたアパレル関係者に布製マスク 2000 枚の制作の依頼をし、外勤である営業も内勤に変えました。しかしながら、やはり事務所の中は三密であり、我々の業務でテレワークを出来ないか検討中に、同じタイミングで所属する NGP グループがテレワークを支援する為に、期間を限定して NGP システムを遠隔で利用できる環境を提供してくれることとなりました。この遠隔システムを活用して何が出来るか？を検討、先ずは生産部署のどの車の何を取るかを工場に指示をする「生産の指示書」と生産した部品を登録する「生産部品の登録」からスタートしました。

実際に行動してみると、会社に来て作業した方がもちろんスムーズですが、今後の第二波・第三波に備えて会社の動きを止めないことには十分役立つレベルと感じています。

今度はフロントでも挑戦する予定です。FAX やメールで届く注文を PC 画面で共有しているので、テレワーク者は FAX とメール専門で受注検索し、PC 上で返信をすることを想定しています。

買取については、ライン査定もスタートしました。厳しい環境下ではありますが、新規顧客開拓などコロナ状況下において、まだやれることが沢山あると感じています。

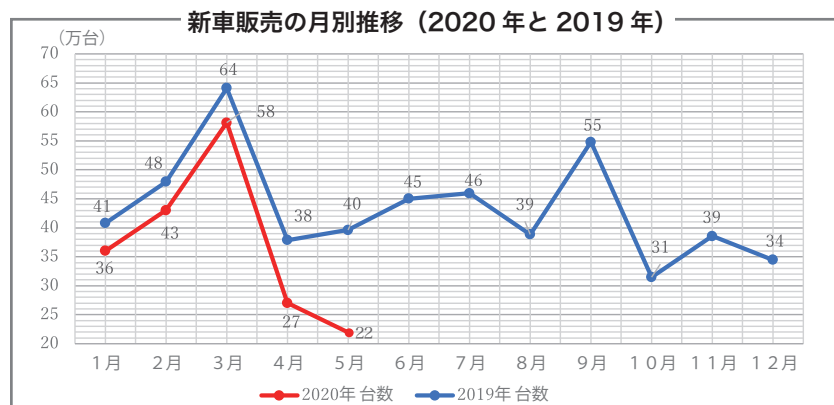


5 月新車販売・使用済自動車発生台数

05

2020 年 5 月度新車販売台数

218,285 台 前年同月比 55.1%



過去の新車販売台数推移		
年累計	台 数	前年比(%)
2020年 (5月まで)	1,860,384	86.1
2019年	5,195,134	98.5
2018年	5,271,987	100.7
2017年	5,234,095	105.3
2016年	4,970,197	98.5

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

2020 年 5 月度使用済み自動車引取 (電子マニフェスト) 実施状況

引取件数
231,831 件 (前年同月比 85%)
フロン回収工程
209,436 件 (前年同月比 85%)
解体工程
245,408 件 (前年同月比 86%)

2020 年度 (2020 年 1 月～2020 年 4 月及び 2019 年度合計)

2020 年	1 月		2 月		3 月		4 月	
	件数	前年同月比	件数	前年同月比	件数	前年同月比	件数	前年同月比
引取工程	238,756	101%	253,493	96%	337,694	95%	304,762	97%
フロン回収工程	215,369	101%	224,329	96%	298,012	96%	279,746	95%
解体工程	251,403	101%	261,283	97%	339,485	97%	321,931	95%

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

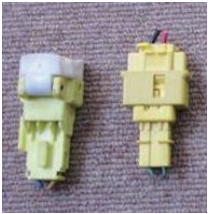
2020 年度 貴金属類の共同出荷事業のご案内

06

機構では、例年どおり機構会員を限定に「コンピューター基板／エアバッグカプラー／センサー類」3 品目を対象とした「貴金属類の共同出荷事業」を実施します。

集荷事業にあたり、事前に集荷を担当する「アサヒブリテック株式会社様」より、事業への参加意思の確認および集荷の日程調整の連絡を行います。
会員の皆様、多くのご参加を心よりお待ちしております。

【回収品目】

回 収 対 象 品 目			
コンピューター (C P) 基板※		エアバッグカプラー	センサー類
			
エンジン C P 基板	エアバック C P 基板		A F センサー

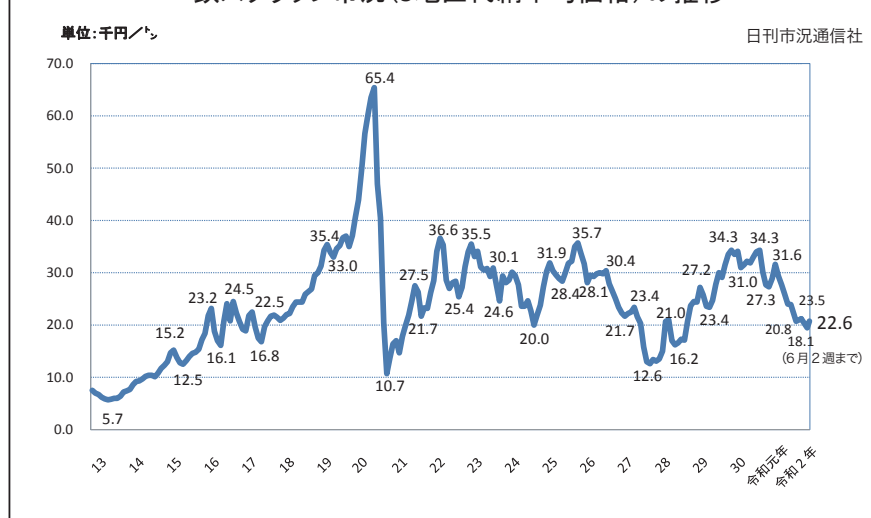
※アルミ板や鉄板等の付着が多すぎるものは、引取拒否になる可能性がありますので、ご注意ください。

【集荷時期】

	単 価 提 示 時 期	集 荷 時 期
第 1 回目	2020 年 6 月 24 日 ※メールマガジン配信済	2020 年 7 月 1 日～31 日
第 2 回目	2021 年 1 月 8 日ごろを予定	2021 年 1 月 15 日～2 月 15 日

6月第3週(18日)の鉄スクラップ動向

鉄スクラップ市況(5地区代納平均価格)の推移



6月18日の国内スクラップ炉前実勢価格 (中心値)

		H2	気配
関東	北関東	26,000～26,500	様子見
	南関東	26,000～26,500	様子見
名古屋		22,000～24,500	強含み様子見
関西	大阪	24,000～25,000	強含み様子見
	姫路	25,000～26,000	強含み様子見

国内市場、東海以西が相場続伸 東日本は様子見、一部値下げも

国内の鉄スクラップ市場では、東海以西の電炉筋の間に鉄スクラップの購入価格を値上げする動きが広がり、1トあたり500～1,000円どころ続伸する動きとなった。

東京製鉄は6月17日、岡山工場を1,000円、宇都宮工場を除くその他拠点を500円値上げした。この値上げ改定で岡山の特級購入価格が今年最高値を更新。田原、九州は今年最高値に並んだ。宇都宮は6月11日、高松は6月13日時点で年初来高値を更新している。同社の値上げを受けて、東海以西の他の電炉筋の間にも値上げ改定の動きが広がった。

一方、東日本市場では電炉各社が購入価格を据え置いたまま大勢は様子見姿勢だ。また、東北の一部電炉に値下げする動きが出ているほか、関東電炉の間でも高値を解消する動きが出ている。関東地区の鉄スクラップ相場が高値先行していたこともあり、東日本市場は急伸局面が一服、相場に天井感が出ている。これに対し、東日本相場に比べて安値だった東海以西の電炉筋の間に「安値修正」の動きが広がり、続伸する格好となっている。

【関東地区】 電炉筋の入荷が好転、概ね様子見の姿勢

関東市場では、上げ相場に一服感が出たことから、市中スクラップの荷動きが活発化。湾岸筋の一部が引き合いを弱めたこともあり、電炉筋の入荷が好転している。使用量を上回る入荷の筋もあり、電炉筋の鉄スクラップ在庫水準が回復する動きだ。関東電炉各社は相場急伸後、概ね様子見の姿勢だが、一部高値を解消する動きも出ている。6月18日時点のH2炉前実勢価格は26,000～26,500円中心、H2浜値は25,500～26,500円中心。

【東海地区】 東鉄・田原工場が500円上げも即日追随は半数にとどまる

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、6月10日まで断続的に値上げ改定がみられたが、これ以降は1週間ほど様子見で推移していた。こうした中、東京製鉄が6月17日から田原工場の購入価格を一律500円値上げし、域内電炉の半数が即日で追随した。しかし粗鋼生産量が減少傾向にあることなどを背景に、残る半数は即日の価格対応を見送っている。6月18日時点のH2炉前実勢価格は22,000～23,500円中心、高値24,500円。

【関西地区】 6月17日から市況一段高も上伸力に弱まり

大阪地区の鉄スクラップ市況は、6月第2週も続伸展開となった。電炉筋の大勢が500円の小幅上げにとどめたことに対して、供給側の抵抗も強く、タイト化の解消にはまだ時間がかかりそうだ。しかし湾岸向け出荷の優位性は薄れ、市況牽引役の関東に天井気配が広がっていることを受け、上伸力は着実に弱まりつつあるもよう。6月18日時点のH2炉前実勢価格は、大阪地区が24,000～25,000円中心。姫路地区が25,000～26,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、6月18日午前時点のもの)

July

ー 7 月の主な行事予定ー

■ 7月 2 日(木)

第 1 回 エアバック流通問題についての協議

※TV 会議の予定

■ 7月 7 日(火)

J-FAR 事業 第 3 回 定例会議

「解体業者とメーカーの連携強化に向けたリサイクル設計事例集製作」

■ 7月 14 日(火)

第 4 回 広報部会

※急遽、日程の

変更・延期の場合がございます。

お知らせ

自動車再資源化協力機構からのお知らせ

「ボンベの可溶栓にご注意を！」

フロンボンベは、40℃以下に保つことが法律上規定されています。『可溶栓』にふくらみが見られる場合には内部圧力が上昇している証です。特に夏場はボンベへの回収作業中や保管中も温度が上昇し、高温となり可溶栓が溶けることによる回収したフロン類が漏れる恐れがあります。フロン類の漏れによる回収料金や地球温暖化に影響いたしますので、よく注意し適正なボンベ管理を行いましょう。

■ 自再協「ボンベボンベの可溶栓」ご案内 PDF はこちらから

http://www.jarp.org/pdfs/information/20200608_fr.pdf



編集後記

新型コロナウイルスによる外出自粛によって、大方の行事や催しが中止に追い込まれ、我が広報部会は兎にも角にも記事ネタに困っております。加えて、編集会議も三密禁止令によってスカイプ会議を行っていますが、これがいまひとつ意思の疎通が叶わず精彩に欠けます。発言の途中で画面がカタマルともういけません。途端に議論に水が差され集中力が途切れます。この会議にはITを使った会議は向いていないというのが部会全員の総意でした。同じ空間の中で互いの感性がぶつかり合う臨場感があってこそ、初めて活きた紙面が生まれるものではないかと私などは思います。

いまや世の中はITを使ったネット会議や在宅勤務が花盛りで多くの企業が導入されているようですが、実際に体験してみると個人的には疑問に思うところが多々感じられました。合理性や利便性だけでは立ち行かないのが人間社会。そういえばインターネット飲み会などというものも流行っていますがこれは如何に。体験者である広報部会の小宮山氏曰わく、「中座のタイミングが難しかった」だそうです。

(広報部会 部会長 永田 則男)